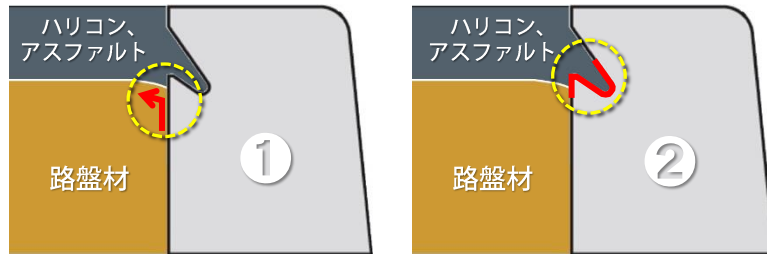


jWBAの防草構造(切欠け)5つの「決め手」

製品や舗装材(骨材)、膨張収縮、盤膨れやひび割れ等物理的現象、植物種、交通状況、気象等、全国様々な条件下のなか発生予防(抑制)の異なるところもございますが、各役所(地整・自治体)や施工担当者様への営業PR時に、防草ブロック施工指針とあわせて下記項目を必ず周知・励行して下さい。

- ・切欠け内部へは、路盤材(土砂)などを除去してから必ず舗装材を埋設すること
- ・切欠け開口部から、路盤材埋設時の上層位置は1~2cm以上の段差を確保し埋設(転圧)すること

- ❶ 地下茎や宿根からの植物成長が舗装下部へと誘導され、舗装上部への成長と剥離を防止する『**第壹の刃**』
- ❷ N構造は、膨張収縮・交通振動などの要因で剥離してもどこかが圧着する構造のため、成長経路を遮断する『**第貳の刃**』
- ❸ 全体が剥離しても、本来の成長運動に逆らう事でストレスを与えホルモン調節が崩れ自ら成長抑制する『**第参の刃**』

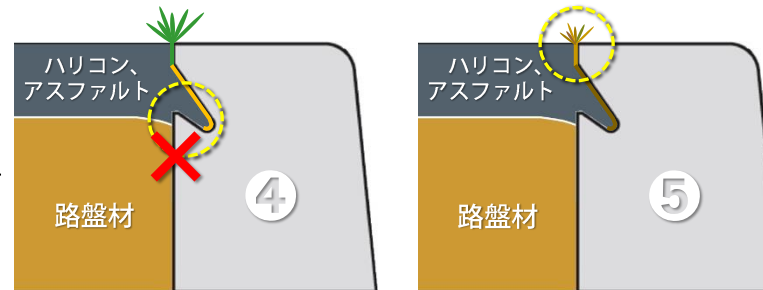


下から地上への成長に

・上部隙間から流入した種子や舗装上部で発芽した植物の根は、隙間を探し下へと成長を開始しますが・・・。

- ❹ 切り欠け全体が剥離し根の成長が底部まで到達しても、折り返し上部へと伸長することはない『**第四の刃**』
- ❺ 根の成長は横(縦断方向)へも成長するが、コンクリート製の切欠け内部は保水効果が無く水分補給ができなくなり、草刈りするまでもなく褐変枯死する『**第五の刃**』

上から地下への成長に



© 2022.Orange